

2025 ひろしま避難者の会「アスチカ」会員情報のまとめとアンケート(配布用)

2025.3.11

ひろしま避難者の会「アスチカ」

【ひろしま避難者の会「アスチカ」とは？】

避難者による避難者のための会です。

東日本大震災の地震や津波、東京電力福島第一原発事故の避難者がここ広島で生活の基盤や気持ちを整えたり、同じ思いの仲間を見つけたりしながら、避難生活を落ち着かせ、次のステップへ踏み出すことをサポートする当事者団体として設立しました。現在、アスチカには 96 世帯 312 名の避難者が登録しています。

※「アスチカ」＝「明日へすすむ力」

表1 広島県把握の避難者数

	世帯数(人数)	%
岩手	3 (9)	2.6
宮城	6 (18)	5.1
福島	68 (187)	58.1
その他(関東地方など)	40 (110)	34.2
計	117 (310)	

2025年2月1日

※表1の人数は全国避難者情報システム(総務省)への本人からの届け出により把握されている人数です。すべての避難・移住者が登録しているものではありません。広島県にも未登録の避難者が数多くいます。また、本人の意思で登録解除をされる方もいます。登録後、避難先で転居した際に登録情報の変更連絡が必要なことや正しい連絡方法の認知が低く、知らない間に登録から外れていることがあり、再登録のサポートをすることもあります。

表2 アスチカ会員世帯 避難元別

	世帯数(人数)	%
岩手県	0 (0)	0.0%
宮城県	8 (25)	8.3%
福島県	46 (147)	47.9%
関東地方	42 (140)	43.8%
計	96 (312)	

2025年2月28日

新規入会世帯は1世帯。退会1世帯。新規入会世帯は以前から広島県へ避難していた世帯。退会世帯は避難元へ戻られた世帯。96世帯のうち4世帯は現在他県在住。広島から他の土地へ移られても情報の獲得やつながりを維持したい方は会員(準)として登録いただいています。

表3 アスチカ会員 世帯状況

	世帯数	%
単身	7	7.3%
大人のみ	26	27.1%
大人+子ども世帯	63	65.6%
母子世帯	22	22.9%

子どもは18歳未満をカウント。子どもの成長で大人のみとなる世帯が増えてきました。母子世帯は「大人のみ」世帯でも学生のいる世帯は含めています。

アステカ会員アンケート結果 回収数 32 世帯／96 世帯(回収率 33.3%)
2月19日(水)郵送により配布 3月8日(土)までの回答分を集計

Q1 生活面(住まい・仕事など)に関して、ご自由にお書きください。(お困りごとやお悩み、思うことなど)

毎日介護と仕事で忙しすぎる / 避難元の家管理 / 今はとても安定してます / やっと落ち着ける場所ができた / 避難後購入した家や設備の修繕が必要になり始めた。
 ・物価高なのにもかかわらず、収入は増えず、生活は大変になっていると感じます。賃貸の家が寒く、今年の冬は光熱費もびっくりするほど高くなってしまいました。
 ・夫が東京へ単身赴任。家族で東京で生活をするか、夫に広島に戻ってきてもらうかととても今悩んでいる。

Q2 ご家族の中(避難元の親御さんなども含め)で健康に不安のある方はいらっしゃいますか？

	回答数	%
はい	10	31.3
いいえ	19	59.4
無回答	3	9.4

50 代世帯が増えるにつれ自身や夫婦の健康状態について心配している声徐徐に増えている。

Q3 今後のご予定は決まっていますか？

	回答数	%
今住んでいる自治体へ定住	15	46.9
避難元ではないところへ移動	3	9.4
避難元へ戻る	0	0.0
決めていない	9	28.1
上記に当てはまらない	3	9.4
無回答	2	6.3

- ➡
- ① 避難元に帰りたい：1
 - ② 避難先に定住したい：2
 - ③ 選択なし：6

(今住んでいる自治体に定住)

友人も多く、デイサービスも楽しく暮らしています / 起業したため / 自宅を購入をしたから / 現状の選択肢がないので / 今のライフスタイルが定着したため / 子ども達が帰省したいのは広島だから

(避難元ではないところへ移動)

- ・時期は未定:子どもたちが家を離れたら、田舎に暮らしたいため(今のところ…)
- ・4月:就職のため

(決めていない) ※①避難元に帰りたい ②避難先に定住したい ③選択なし

②避難先に定住したい

- ・生活面は落ち着いているので広島定住で問題ないですが、避難元の義母が一人暮らしなので、それによりきめられません。

③選択なし

- ・避難元は原発事故の影響が心配。避難先は何かと不便なことが多い。

(上記に当てはまらない)

- ・仕事のある所へ行く
- ・家を購入はしたが、避難元へ帰りたい気持ちも消えないし…って感じ

「定住」「定住したい」が半数。

かつては「定住したい」を選んでいただけで「決めていない」に変更の方も。それぞれの家庭で、仕事や子どもの教育、避難元の親の健康状態などから方向転換されている様子も見れる。

Q4 今、大変だと感じていること・困っていることは何ですか？

(複数回答あり)

	回答数	%
仕事が見つからない	1	3.1
仕事にやりがいを感じない	3	9.4
生活費が足りない	4	12.5
支援が縮小していくこと	2	6.3
避難指示が解除されたこと	2	6.3
体調不良	3	9.4
忙しすぎる・自分の時間がないこと	4	12.5
親の介護	6	18.8
育児	2	6.3
子どもの教育・進路	5	15.6
家族バラバラに暮らしていること	5	15.6
避難元の親・親戚・友人になかなか会えないこと	9	28.1
心の余裕のなさ・精神的な不安定さ	3	9.4
家族間の意見の不一致(夫婦間、パートナーと自分)	1	3.1
家族間の意見の不一致(自分と親)	2	6.3
家族間の意見の不一致(自分と子ども)	1	3.1
避難元が復興しないこと	0	0.0
避難元の復興が望む形と違うこと	1	3.1
避難元に帰れないこと	1	3.1
(直近で)避難元に帰ろうと思うが、具体的にどうすればいいのかわからない。	0	0.0
今住む地域に親しい友人がいないこと	2	6.3
避難元の友人と疎遠になってしまったこと	2	6.3
震災や原発事故のことが世間から忘れられているように感じること	8	25.0
原発が再稼働されたこと	8	25.0
避難先の人たちと意識の差を感じる	2	6.3
避難への無理解	1	3.1
特にない	4	12.5
その他	3	9.4
無回答	0	0.0

(その他)

- 仕事の休みはあるのに、リラックスした時間が過ごせていないこと。
- 広島付近にも、島根にも愛媛にも原発があります。そして残念なことに動き始めてしまいました。もう私には2度の事故に耐えるだけの体力も気力もありません。
- 世界一高い税金

避難元にいる人との関係に寂しさを感じている様子は依然強い。
「震災や原発事故のことが…」や「原発再稼働」は「自分たちの存在を忘れられている」ということではなく、「震災や原発事故があったことを忘れてしまったかのような世の中の動き、選択、ビジョン」に違和感を持っているという意味合いが強いと思われる。
これまであまり選ばれることのなかった「特にない」を選ぶ世帯が4世帯あった。

Q5 今後、どんなことに不安やお悩みがありますか？

(複数回答あり)

	回答数	%
避難先の生活が安定するか	5	15.6
自分の健康が保てるか	10	31.3
家族の健康が保てるか	12	37.5
避難し続けられるか	0	0.0
公的支援がいつまで続くか	2	6.3
避難指示が解除されること	1	0.0
子どもをしっかり育てられるか	1	3.1
子どもの教育・進路	5	15.6
家族と一緒に暮らせるか	1	3.1
夫婦の関係が悪化しないか	1	3.1
避難元の親・親族との関係、付き合い	3	9.4
避難元へ帰れるか	1	3.1
避難元へ帰らなければいけないこと	2	6.3
避難元へ帰った時に孤立しないか	0	0.0
避難元にいる親の老後・介護	4	12.5
避難先での人間関係	4	12.5
自分の老後	9	28.1
子育て後の身の振り方	3	9.4
特にない	6	18.8
その他	1	3.1
無回答	2	6.3

(その他・自由記入)

- 子どもがいて自分がいるという感覚でいるので、手が離れたときの夫婦のあり方や自分の生きがいなど意識していかなければならないなあとぼんやり思うことがあります。
- 老後資金をためる余裕なし。

■ 最近、子育てを終えた後の自分についていろいろと思いを巡らしているお話を聞くことが増えました。
子育て後についての思いやお悩み、迷いなどあればお聞かせください。

- ・このまま広島で生きていくことになると思います。ただ実家問題が残っているので(介護、実家の処分、墓、相続、片付け etc)関東との距離が厄介です。私たち親も就活の入り口です。
- ・引っ越し当時は子どもが3才、8才で自然豊かなところでのびのび遊ばせたくて今のところに家を購入しましたが、子どもが大きくなるにつれ、交通機関のない不便さに嫌気がさすように。お金さえあれば便のいいところに引っ越したいです。(小さいうちはとてもいいところだったのですが…)

自分や家族の健康や自分の老後へのチェックが多かった。この場合の「自分」は1人世帯の本人や各家庭の母親の場合が多い。避難世帯の年齢が上がり、自分や夫婦の老後を考えた時に体の衰えも感じることから健康維持への不安を感じるが増えているよう。

避難先での生活は表面的には落ち着いている人も増えているが、その維持への不安を抱えていることもあるようである。

避難元の親の心配、子どもの進路は避難世帯のコア層が50才前後になり目の前の課題になっている。

Q6 震災から間もなく14年の時期になって、変化してきたことは何ですか？良いことでも悪いことでも気づきがあれば教えてください。(複数回答可)

(複数回答あり)

	回答数	%
気持ちが穏やかになってきた	6	18.8
あきらめのような気持ちが強くなった	7	21.9
生活が安定してきた	10	31.3
楽しいことをしようという気持ちになってきた	8	25.0
無気力になってきた	1	3.1
前向きな気持ちになってきた	6	18.8
将来への不安が強くなった	5	15.6
広島に定住する気持ちが固まった	5	15.6
避難元へ帰りたい気持ちが強くなった	2	6.3
怒りが強くなった	0	0.0
変化はない	5	15.6
その他	5	15.6
無回答	1	3.1

(その他・自由記入)

- ・前向きな気持ちとこの先の不安が混在している気がします。
- ・原発事故の経験をきちんと子ども達にも世の中にも伝えたい。2度と再び同じ思いをする人を生みたくないという願いが強くなってきた。

- ・汚染水を言い換えて見たり、見もしないNHKに金を払ったり、黒いものを白と言わせる気持ち悪い世の中がずっと大嫌いです。
- ・子供の成長に伴い、気持ちや状況もコロコロと変化します。日々目の前のことに対応するのみ(笑)
- ・良くも悪くも変化は年齢だけで気持ちに変化はない(毎日が精いっぱい)

生活の安定を感じている人は昨年同様多くなっている。
 心情は、前向きさを感じる気持ちと「あきらめのような気持ち」に二極化しているというより、いずれも同居しているような心情を持つ人が多い。

Q7 アスチカは「生活の基盤や気持ちを整えたり、同じ思いの仲間を見つけたりしながら避難生活を落ち着かせ、避難者が次のステップへ踏み出す力を蓄えることをサポートする」ことを掲げて活動してきました。現在、日々の生活は「安定した」、「生活基盤は整った」と感じますか？

	回答数	%
はい	23	71.9
いいえ	6	18.8
無回答	3	9.4

① (「はい」の方) それは避難後何年たった頃ですか？

	回答数	%		回答数	%
1年未満	3	9%	8年後	2	9%
1年後	1	4%	9年後	0	0%
2年後	0	0%	10年後	3	13%
3年後	1	4%	11年後	0	0%
4年後	0	0%	12年後	3	13%
5年後	3	13%	13年後	1	4%
6年後	1	4%	14後年	0	0%
7年後	3	13%	無回答	2	13%

② (「はい」の方) それは何をもってそう感じましたか？

- ・夫の実家の近くに避難したので、当初から親類からのサポートがあったため
- ・出身地である広島に戻り、生活の安定を感じたのは早かったと思います。子どもの進学や仕事が安定してきたことで増したと思います。
- ・福島を出発し、あちこちでお世話になり生活してきました。避難の長さ=出会いの多さで日々楽しかったです。家なしは不安定かもしれませんが、それは見た目であり、我が家は安定していました。助けてくれる人の多さ、温かさに喜び、充実した毎日でした。
- ・仕事の安定 / 正社員として働くようになったこと(月給・ボーナス)
- ・子ども学校生活の安定
- ・住宅支援打ち切り後、自分たちの収入で安定した生活が遅れていると感じた。
- ・車でいろいろな場所へ自力で行けるようになったこと

- ・地域の人との交流が増えた。
- ・相談し支援してもらえから
- ・子育てが終了(学校生活)し、それぞれ就職し、自分の時間も作れるようになった。

③ (「いいえ」の方) それは何が妨げとなっていますか？

- 収入の少なさ / うわべだけの関係の付き合いどまり / 家族のいろいろな心配なこと(体調等)
- ・原発が今も動いていて、原発事故の責任は未だ国は認めようとしていないで個人の責任として忘れ去られようとしていること。
 - ・体調が悪いため就職できず、これからの生活に不安がある。
 - ・日々の生活は落ち着いているが、太極でみると家族一緒に定住先がないまま子どもが成長していくのが安定とは言えないのかなと思うことがある。

初の設問。

生活の安定を感じた時期はバラバラだった。安定を感じるポイントは、仕事・収入の安定、子どもの生活の安定、支援に繋がれたこと、地域へ馴染めたことなど。安定を感じられない場合のポイントには、前述のポイントの有無だけでなく、未来への不安や将来の不確定さが大きいことも加わっていると思われる。

Q8 避難・避難後の生活で、あってよかった支援、欲しい or 欲しかった支援は何ですか？

あってよかった支援

- 住宅支援・家賃補助 / 交通費の支援(民間) / 避難者同士の交流の場 / お米の支援 / ナイトサファリ(安佐動物公園)の招待 / 家具、家電、生活物資の提供 / 公共料金の減免 / スポーツ観戦 / 音楽・演劇鑑賞 / 架け橋ツアー / 甲状腺エコー検査体験会 /
- ・高齢になると外出が難しくなり、外出先は近場です。アスチカスタッフの家庭訪問は本当に心が通う素晴らしい時間でした。
 - ・原発裁判をはじめようと言ってくださった弁護士先生方
 - ・アスチカの存在(相談できるところがあるという安心感)
 - ・呉市つばきカードによる「グリーンピアせとうち」「野老山ロッジ」のお風呂無料は大変助かりました。

欲しい・欲しかった支援

支援情報の共有 / 学校で必要なものの支給など / 関東からの避難に対して住宅の支援

これまでを振り返って、あって助かった支援、欲しかったがなかった支援を挙げてもらいました。避難元によって受けられる支援が違っているので、受けられた人と受けられなかった人がいたものもあります。情報が得られず、対象者であったのに受け取れなかった支援もあったと思われます。また、公的支援ではなく、民間の支援につながり、支援を得られた方もいます。

Q9 発災から14年が経ちました。避難生活の中でよかったと思うこと、つらかったと思うこと、自分自身の気持ちの経過、今だから思うことなど、これまでを振り返ってのことをご自由にご記入ください。

- ・つらかったのは避難元の義父が2年目に亡くなったこと。世間の無関心を感じたこと。よかったと思うのは同じ思いを共有できる人たちとつながれたことです。今は生活も落ち着いて時間もある程度経って、特に思うことなく日常を送っていますが、いつ何があるか分からない危機感はまだ薄いかもかもしれません。思い出したくないのでフタをしている感じもします。
- ・仕事があり、少ないですが友人もいて、はた目にはなじんでいるように見えるのではないかと思います。故郷が恋しい気持ちは変わることがありません。(年を重ねてむしろ強くなっていくのかもしれませんが。)
- ・避難元と比べて余計な集まりがないので、生活が楽になった。
- ・広島県の観光地に行けたことは良かったです。全く知らない土地に来て、やっていけるか心配でしたが、住んでいるうちに周りの方たちのサポートもあり、その不安も和らぎました。住めば都ですね。
- ・よかったのは何かあっても困らないという実感が持てたことです。それ以前もきっとそうに違いないと思っていましたが、あー本当に困らないんだとわかりました。日本は豊かだ。人はやさしい。
- ・一人で子育てせねばならなかったこと、夫と息子の共有する時間がとても少なかったことは残念。一方、広島にいたからこそその出会いも多々あり、良かったこと、つらかったことがこもごもです。
- ・避難元と広島では人付き合いの距離感が異なり、うまくなじめないと感じて悩んだこともあった。住んでみるとわからないことはたくさんあった。
- ・(よかったこと)避難先での子どもたちの生活・学習環境がよかった。(大変なこと)仕事を通して安定した収入を得られるまで時間がかかった。仕事も避難前と同じ内容・規模に至らない。
- ・自分自身が忙しすぎて子ども達にあまり手をかけてあげられなかった。特に中学時代、もう少しサポートできていたら…と思うところがある。
- ・避難を親戚から「大げさだ」と言われた。実母から孫を遠ざけてしまい淋しい思いをさせて悪かったとも思う。

Q10 昨年の年初に能登半島地震が起きました。東日本大震災後、何度も国内で災害が起こっています。発災時の被災者支援について、思うことがあれば教えてください。

- ・災害を受けた苦しみや辛さはそこに住む人にしかわからないものがあると思うので、必要な支援が必要な人に届くことが一番だと思います。
- ・メディア(テレビ)ではどんどん次の災害へとクローズアップされていきますが、ひとりの体験者としてはずっと背負っていく人生のことなので、そのことに思いを馳せたいです。
- ・地震は止められないが、起こったときの被害を少なくするためにも原発はやめてほしい。
- ・避難所の待遇改善をまずお願いしたいですね。被災した後、あの生活は非常に過酷ですから。生活支援ももっと手厚くしていただきたいです。
- ・災害が起こるたびにさまざまなことを見直されていますが、災害や自分も被災者になる可能性についてまだまだピン!と来ていない人が多いことが問題だと思います。
- ・避難することできるか、残る選択をする人も多い。それぞれの選択が尊重されてほしい。線引きや支援の格差はやめてほしい。
- ・地域によっては復旧・復興がまだまだとも聞く。そこに住む人たちが、同じ日本に生きているはずなのに自分たちを見えなくする何かがあって、自分たちが存在しないような扱いを受けている気持ちになっているのではといたたまれない。被災した人たちの尊厳を守るような支援であってほしい。被災者自身は必要な支援を聞かれても、的確に答えられないと思う。困りごととそれに対応する支援のコーディネートがうまくいっているといいな

と思う。また、地域や組織単位で「受援力」を平時から高める必要もあるのではないかと思う。

- ・情報を持っている人間だけが自分や家族を安全に守れる。地域に頼らず自分で判断できるように情報を集めて個人が対策した方がいい。
- ・災害は繰り返されますが、被災者支援についてはほとんど進歩がなく、つらい生活が強いられている。
- ・復興がなかなか進んでいない様子を見ると田舎は今後見捨てられていくのかと感じる。

Q11 今、楽しいこと、楽しみにしていることはありますか？

	回答数	%
はい	26	81.3
いいえ	2	6.3
無回答	4	12.5

家族旅行 / 子どもとの時間 / 推し活！ / 友人たちとの食事・おしゃべり / 孫たちの成長 / 子どもの成長・将来 / 犬の散歩 / ヨガの教室が続けられること / 三味線 / いどばた交流会 / 地域の人たちとのカラオケ / ボケ防止の麻雀 / 将来へ向けての行動 / 自身の仕事の拡大 / ネットflix等映画を観ること / 家造り / 畑づくり / 長男の就職 / 家族で過ごす時間 / 自分自身の勉強や成長 / 何をしようか、何ができるかを考えている時間 / 趣味の活動 / 仕事 / 家族と過ごす時間 / イベントが増えたこと / コーラスサークル /

- ・老後はこんな風に暮らしたいと想像し思い描くこと(笑)
- ・春から体力づくりして一人暮らしだけど健康に生きる。時間を自分のためにつかってみる
- ・転職する。引っ越しや仕事に不安もあるが楽しく過ごせたらと思う
- ・母が市民センターの日本語教室へ通い、少しでも日常生活が送りやすいようにしている

Q12 アスチカに求めているもの、会員でいることの理由は何ですか？

(複数回答あり)

	回答数	%
他の避難者と知り合うため	5	15.6
避難者同士のつながり(交流会などには出ずとも)	19	59.4
アスチカから発行物が届くこと	13	40.6
支援情報の獲得	7	21.9
さまざまな催しの情報獲得	5	15.6
困った時の相談場所として	18	56.3
避難者であることの自己確認(「自分＝避難者」であることを確かにする)	7	21.9
精神的支え	11	34.4
避難者同士の情報交換のため	1	3.1
その他	2	6.3
無回答	2	6.3

(その他) ・避難して来てすぐのころ、同じ想いの人がいって本当に救われたので、その時の感謝の想いから未だにつながせていただいているのだと思います。

Q13 あなたにとってアスチカの活動で必要なもの上位3つを選んでください。

	回答数	%
交流会	6	18.8
たねまく通信等の発行・お届け	14	43.8
「たねまく広場」の運営	9	28.1
「たねまく広場」でのイベント	3	9.4
生活応援品の提供	4	12.5
民医連健康相談会の案内	10	31.3
支援情報の獲得・仲介	6	18.8
他の支援団との繋がり	2	6.3
会からのコンタクト(電話)	3	9.4
会からのコンタクト(訪問)	2	6.3
公式LINE	10	31.3
その他	3	9.4
無回答	4	12.5

(その他) 存在すること / 避難者同士のつながりがあるということ

何かしていただくことが必要とはもう思っていないかも。強いて言えば気持ち的な繋がり。

「つながり」と「情報」の二つが求めることのキーとなっています。

情報が届くことは孤立していないと感じる機会にもなっているようです。

アスチカの事務所兼交流スペース「たねまく広場」があること自体も、避難者のつながりを目に見えるものにしていて安心感を与えられているようです。

Q14 「アスチカがあってよかったと思った瞬間があれば教えてください。ささやかなものでかまいません。

- ・アスチカの会員さんと話していると、その都度の悩みを共有できて癒されました。時間の経過で思いも変わるのです。
- ・広島の暮らしには欠かせない存在です。
- ・アスチカが中道でみんなをつないでくれて本当に感謝しています。
- ・公的支援や住居のことなど私たちだけでは難しかったこともスムーズに進めることが出来、とても助けていただきました。
- ・いつも思ってます。原発事故のせいで避難元(関東)から避難してきたことをしているのはアスチカだけです。他の人に行ったところですぐに忘れられるし、関心を持たれることは少ないです。
- ・刊行物があったり、災害のあと「大丈夫ですか」と声掛けがあったりすると見守られてる実感ができ、「困った時はアスチカへ」というのが心の支えになっている。
- ・東日本大震災がどんなものだったのか？共感できる人たちと知り合えてよかったです。忘れてはいけない…。遠いところで起きたこととして他人事でもいけないと思うんです。
- ・交流等に参加しなくとも精神的な支えになっています。本当に困ったときに頼りたいです。
- ・年に一度近況を書いてお返しするときに自分の今の気持ちを言葉にして確認できること、毎年違うことを書いていっているように思いますが、どれも本心。安心して返信できる場所があって嬉しい。
- ・気持ちが話せた。同じ考えの方がいてうれしかった。甲状腺見てもらえてよかった。

Q15 アスチカを退会するのはどうなった時ですか？

(複数回答あり)

	回答数	%
広島を離れる時	11	34.4
「もう避難者ではない」という気持ちになった時	0	0.0
支援や情報が必要なくなった時	1	3.1
自立できたとき	0	0.0
アスチカの活動終了時まで会員でいる	16	50.0
その他	0	0.0
無回答	3	9.4

それぞれが広島でいろいろな人や社会とのつながりを作って生活をしているが、3.11 をきっかけに広島で暮らすことになった者同士というコミュニティーは、会員にとって広島での生活が落ち着いたからと必要なくなるものではなく、精神的な支えとして必要とされていると感じる。

Q16 広島の中で心を許せたり、頼り合ったりできる人とのつながりはできましたか？

	回答数	%
はい	25	78.1
いいえ	4	12.5
無回答	3	9.4

(「はい」の人)アスチカがなくとも成り立つ？

	回答数	%
はい	21	84.0
いいえ	3	12.0
無回答	1	4.0

(「いいえ」の人)なぜ？(複数回答あり)

	回答数	%
出会いがない	1	25.0
時間がない	0	0.0
出会う場に行っても見つからない	1	25.0
必要としていない	0	0.0
その他	2	50.0

(その他・自由記入)

- もともと性格があまり人と関わるのが苦手。その代わりに家族で助け合ってます。
- 年齢的にもうなかなか難しい。

全体を通して

大きな傾向は昨年と変わりないように思います。

今年も、前向きな言葉が多くありました。が、昨今の物価上昇により生活の大変さを訴える声は増えました。

日々の暮らしに大変さは変わらずあるにしても、それを受け入れて暮らしている様子が見えます。避難者それぞれ、なかなか思うように行かなくても少しでもよい状況になるよう、避難してからの時間で頑張ってきたことが実を結んでいることも感じられました。

ただ、広島に何の縁もないまま避難した人は、ひとたび何かあったときには頼る先をあまり持っていない状況にあり、そこに不安を感じている人はこれまでと変わりなく少なくありません。避難者同士のネットワークを持つことは、その不安を少し和らげる役割を持っていると感じています。

子育ての終わりが見えてきた人達も増え、避難の理由である「子どものため」というミッションが終わることも意識して、その後について考え始めています。